

素数の日記（1）

1. 数字の世界に素数があるという次元を離れ、素数という世界に数字が活かされているという考えを普通とする。数字は、身体。素数は、心。以前に実践したそれ関わりの EW も、ここで、その質を変える。

人間の思考では触れられない素数の次元(意味)も、無有日記の中には、初めから普通に在る。法則を持たないのではなく、法則を不要とするから余裕で法則(思考)の世界を支える、素数。その思考レベルの諸々が歪であるがために、素数(の原因)の意思は、その原因を浄化しようと動き出す。さらりと時空が変わる新たなこの時に、「直感」が、その下地となる。

2. 存在としての素数の基本は、脳の中には無い。つまり、思考でいくらそこへと近づいても、永遠にそれと自分を重ねることは出来ないということ。なのだが、無有日記の世界を普通とする脳は、いつでも、その原因を心の芯に通す。それによって何が起きるか…。素数の原因の力は、それが自らのそれとなれば、無有日記の世界を、楽しみながら普通感覚で具現化させていく。

3. 素数の、その人間の知では分かり得ない並びの姿の、その意味はどうでもよく、その意味不明の原因の中に漂うそのこ

HP「無有日記」

<http://www1.odn.ne.jp/mu-mew/>

とで、人間の、生命としての意思は、どこまでも活動的になる。

一生命としての心の基本を持たない人には不可能な、その経験。頭でのみ理解しようとする世界に居る人が、素数の意思(真の意味)に触れることは出来ず、それでもその先へと行こうとすれば、そこに在る原因の(多次元的な)巨大さに、彼らは打ちのめされる。

生命たちはそれを知り、それだから、このタイミングの時に、フツ〜に素数の原因と遊ぶ。素数の次元は、地球本来の周期表 13 番とも仲が良い。

4.原因の世界には、素因という原因があり、数の世界には、素数という数がある。数の素因には、素数の原因があり、それは、滞ったままの素因の次元を処理する意思を持つ。問題事も流れない関係性も、その原因は、これまでよりも扱いやすくなる。

5.人間が思考を働かせ始めたことでその形が存在し得ることになった、数。そして、その果てに、思考が通用しない次元に在ることが分かった、素数。つまり、数の世界は、人間誕生の後であり、素数の次元は、それよりもずっと前からこの地球には普通に在るということ。

人間だけを生きる思考型の存在が素数の本質には近寄れないことを活かせば、生命を生きる人間経験のその原因は力を持つ。生き物としての人間。一生命としての人間。そして、人

としての人間。素数の原因(となる存在の意思)をここに誘い入れ、病み世の枠から離れる。岩塩が通す元素たちも、動きやすくなる。

6.素数は、そこを通過して来ようとするある次元の意思(原因)の間口としての役を担い、これまでに無い仕事をする。という時がここに引き寄せられる。こんな時が来たのだと、改めて思う。あれから、何年経つのだろうか…。「直感(5)」を前にして、無有日記の次元も大きく変わる。

7.無限に存在する、素数。しかし、その役割は、皆が同じではない。ずっと永い間、どうすれば良いかと工夫を重ねてきた、地球本来の意思。素数の背後で時を待っていた彼は、進化した(本来の力を取り戻した)直感の中に、姿を見せる。そこから始まることは、この時代の本格的な EW とも言える。

8.数の無かった時代、そこには素数の原因だけが在り、動植物たちは皆、その素数の元となる意思によって、他の何ともぶつからずに生を営む。その原因は、生命誕生から、体を離れて次の生へと繋がるその時までのその全てを支え、無限に広がる調和の時の、その生命表現の材料で居続ける。素数という文字(数字)を通して触れ得る次元は、人間を一生命として扱う地球である。

9.人間にしか出来ない原因づくりを重ねてきた経験は、人間には到底出来ないことのその手前のところにまで辿り着けたことの、その貴い事実を伝えてくれる。だから、素数。その手前では、岩塩。全てはキレイに動いている。

10.全ての数字が素数(の積)で表されることを考えれば、数字の世界が結果で、素数のそれは原因であると言える。元素本来が岩塩を自由に通る今だからこそ、素数の元となる意思是活躍し出す。いくつもの面白い現実が、出番を待つ。

11.素数は、この人間の価値世界から観れば、それは暗号のようなもの。但し、その送り手は、地球。だから、地球感覚の原因無しでは、それは永遠に意味不明な世界。そのことを可能とする人たちは、ごくフツ〜にそこを通る。無有日記のこれまでが、そのための準備運動になっている。

12.非生命的な存在の中に、素数の原因は無い。そこを通ることも無い。だから成り立つ、裏表のある人生。建て前と本音を使い分けて偽善を生きる、その異様な姿。それに付き合わされて来たこれまでから、そうではないこれからへ。岩塩が、素数の原因の原因(の原因)まで連れて来た。

13.らせん状に回り続けるその回転軸が途中で不自然にねじれてしまったような、そんな不思議な状態を、素数の元となる

ら。その全ての影響下に居た経験を持つ素数の原因は、それらに細かく反応し得る個性を活かし、人間を生きる生命たちに付き合う。歪な重力のその原因が、ほんの少しだけ動き出す。

97. 身体を思うままに動かす脳は、そうであるように学習した、その記憶の組み立てによるもので、それが通用しない、一生命としての生の方向性や、そこでの表現の質の変化(進化)に関しては、それらの原因となる別次の意思からの働きかけが、脳を通してそれを支え、安定させる。

その意思が、1の原因絡みの影響で不自由にさせられたために、人間の世界ではあたり前となってしまった、争い事や病気。その退化の材料のような不穏な出来事のその原因も、ここに来て、不安定な動きを見せる。

98. 考え、学び、経験し、覚える次元には無い、人としての在り様を見守る、生命の意思。それが在るから、学ぶことも経験することも、未来への責任をあたり前に、繋がり伝わるその手前の原因(の質)を中庸を基とするそれとして大切にするのであるが、(停滞の原因そのものである)海の塩や白砂糖無しではいられない人には、それが無い。

そして、そうであることの理由は、もちろん、それをまかり通らせる、生命の意思とは真逆の、その次元の非生命の意思。それがそのために利用し続ける物質を、あぶり出す。(by

次元はかつて経験する。しかし、地球の生命力のその源となる意思是、その地球上での出来事に対し、当然のようにしてそれが修正されるべく道のその原因を、永遠の変化の時に乗せる。それが無有日記を通る。

14. 素数の世界で最も重要なのは、素数が、連続していくつも存在しないところ。それを、素数の原因が通ろうにも通れない箇所として捉えれば、素数の本質(次元)が少しずつ感じ取れるようになる。形ある数字からではなく、その限り無い原因から始まる、素数の世界。そこには、地球感覚の一部になろうとする、貴い意思が在る。

15. 素数それぞれの個性は、その数(の姿)を通り道として選んだ個性ある原因の意思が、そうである事実を創り出す。それは、いくらでもあるけど、それらが集約された姿としての、ある独特の素数の存在も居る。一度始まったら、一気に行く。それが、この今の、ここでの仕事。素数でも、そうでなくても何でもいい次元から、素数を観る。

16. 3ヶタから、通るものが一気に変わる、素数という数字(思考)の次元に託された、そこに在る原因の響き。その手前と後とでは、まるで平和と争いの違いのような変化があり、素数の原因がとてつもない負荷を抱え込まされたかつての風景を、それは伝える。地球の知恵は、全てであるひとつのその普通

の中に、全ての中の一つのひとつをさらに差し出す。

17.素数の本質を思考で捉えることは永遠に不可能で、素数を通るものとの融合という、その何でもない体験を通して、人は、素数の真の姿を知る。それは、そのことで変わり行く風景がこれまでのそれとは全く違うことから気づかされる、そこに在る意味の重大さ。素数の原因が自らを通ると、それだけでOKとなる本来の生が力を付ける。

18.素数の原因と繋がり、それに生かされている生命たちは、非生命(非人間)的という次元を知らない。だから、ただ受容するだけ。そのまま、ありのままに生きるだけ。潰されても、壊されても、それしかないそれをただ普通に大切に生きて来たから、この今がある。

19.永遠の変化に乗る天体の、その姿が球体であるのは、それが完全なる生命体のそれであるから。その様を安定させる(原因の)重力と生命力は、同一。素数の原因となる次元は、人間も動物も皆その本質は球体であり、その全てが地球の重力(子)とその中心で繋がっていることを伝えてくれる。

20.岩塩の中の岩塩を通る、遥か昔の時空と地球本来の元素たち。そこには、岩塩が生み出されるその必要性の無かった時代の重力も在り、そのけん引役を、素数の原因は担う。同

因を力強くし、通るものも、流すものも変える。その元素への対応は、人間世界からの地球への恩返しのようなもの。時空は、かつての地球のそれを未来へと通す。

94.人間の何気ない意思表示の、その元となる原因の世界において多数が共通に備えることとなる、ある性質の次元層のようにして在る、特殊な(異常な)粒子の世界。ゼロと1のそれぞれの原因に元素関わりで触れた経験は、その世界の本格的浄化を試み得る時を創り出す。人間は、元来、問題事とは無縁の、太陽の心のような生き物。生命本来が主導権を握る。

95.人間の本性のその元となる次元には、(自分たちは)簡単には入り込めないことを、素数は知る。しかし、それが無意識の意思の活動源となって、人間の(脳の)理解とは異なるところで、時空を重く、病ませていることは、彼らは承知である。

そして、そこに在る、「直感(3)」でも登場した、ヒ素元素層のその質量数89の原因。蛇系コウモリ型とも呼ばれる、一生命としての原因とは無縁の存在は、素数が信頼する生命たちのその普通によって、否定感情の後ろ盾を無くす。

96.本来の在るべき普通からかけ離れた質量を備える物質は、それだけ非生命色を濃くし、その多くが、非地球の意思に同調する。その元は、地球の、その無くてもいい経験(痛み)か

91.ゼロの原因は、海の磁性を奪い、陸地の平穩を侵す。肉食動物や夜行性の生き物を存在させるという、地球にとってはあり得ない現実を自然界に組み入れ、その不調和と不自然さが普通となる歪な地球自然界を存続させていく。

人間の次元にも影響を及ぼし出したそれは、数万年前の、夜行性(蛇)絡みの人間誕生後、彼らを通して、1 に向けての原因づくりを行う。1 の具現には、(人間世界での)素数の原因のその更なる押さえ込みの意が含まれる。

92.人間の次元深くに染み込み、無くてはならないものとして思考の世界に確固たる居場所を手にした、1とその原因。1の原因関わりの元素は、その背後に在るのだが、名前は無い。周期表の中に在っても、それは本物ではなく、13番の実とどこか似ているような次元に居て、異常な仕事をし続ける。

陽子は43、中性子は74という、異常な質量数を備えるそれは、人間の思考からは遠いところで、自由気ままに、数字を従え、時空を重くする。人間本来の脳は、それを知るだけでも動き出す。

93.素数の原因を尽く退けつつ、人間世界の自浄の機会を無きものにして、1の原因。その主となる仕事を担う元素のその姿は、当然言葉では扱えない。EWを重ね、感覚的理解を更新し続け、そのことによる変化の時を楽しむ。

思考も経験も一切通用しないそこでの体験は、素数の原

じこの時代の同じ空間に居ながら、自らが関わる時空の重力が変わり出すという、そのあり得ない普通。素数の後方でこの時を待っていた、地球そのものの意思是、そもそも、重力(子)が、この今のそれとは違う。

21.この今から、次の今へと変わる、時空。しかし、計り得るそこでの時間の流れは把握できても、そうではない空間のそれは、分からないことになっている。それを、真の普通の次元へと変える(戻す)。そのことに協力する地球13の仲間たちは、自らが選んだ素数を通り、ずっと昔の時代を、この時代に重ねようとする。

22.地球自然界が身動き出来ない程の不自然(非地球的)な重力の中にこの世が在るといふ、多次元的原因の世界からの事実。そして、そうであることを基に人間だけを生きる(非生命的な)存在たちが、不健全さを普通に時を重くさせているという、もうひとつの事実。だから、素数。時代が、重石のような数の世界に埋め尽くされていても、素数の原因は、そこからあたり前に自由でいる。健康のその重要な原因は、重力子の修復によって、その本来を呼び醒まされる。

23.素数という形ある世界に身を置きながら、形無き原因の仕事が無限にし続ける、その本質の力。地球の記憶を繋いだ岩塩がここには在るから、宇宙本来の記憶を持つ素数は、余

裕で、未来地球のためのその原因を担う。生命たちは、存分にそれと遊ぶ。

24.地球とそこに生きる生命たちが重力で繋がるように、太陽系の各天体は、それを包み込む宇宙空間の真ん中と、同じように重力で繋がる。もちろんそれは、不調和(歪な重力)の根源である、銀河の中心のことではない。素数の原因は、そこをさらによけて、宇宙の意思と繋がる。

25.夜行性の存在を除く全ての生命たちが、素数の原因の次元を基に成り立っているということを、人としての普通の理解とする。それだけで変わり出すものは、この人間の世界では無限である。それを楽しみ、軽やかに生きる。素数は、あくまで仮の姿。その本当の姿は、生命力の源のような、地球発の(地球を通る)原因の力。

26.ゼロが存在し得るそのための下地が生まれたのは、それまで自由だった地軸が固定されてしまった時。そのことで、地球の重力子と繋がる素数の原因は歪み出し、地球は、本能的に、黒岩塩創造の原因をスタートさせる。その頃に地球に流れ込んだ右回りの重力に潰されたままだった、素数の原因。23億年振りに、彼らは笑顔になる。

27.素数は、他を隔てたり、支配・独占したりするためのその材

然るべきプロセスは、実践から。言葉では表せない。ただし、人間の次元からでも触れ得るところに、動く(動かざるを得なくなった)ものが在る。その一つが、インジウム 117。

89.地球の自由な自転が阻まれたその原因には、数限り無い非生命的な物質が絡む。その殆どは、人間の世界からは永遠に感知し得ないものとして在り、素数の原因は、そのために、力無い時を過ごす。

素数(の原因)の意思を具現化させる無有日記は、それらの物質が潜める、酷く強力な負の原因のかたまり(威力)を、生命たちの力添えで砕く。そのための基礎力は、「素数の日記」以前の全ての文章とそれに乗った原因。それは、普通に、遊び感覚で行われていく。

90.ゼロの原因は、地球が不自由さ(回転の歪さ)を強いられた時からうごめき出し、そのままの流れで、地球全体の(その本来在るべき)活動を抑え込むようにして成長する。その本質は、停滞そのもの。破壊と支配を普通とする、非生命の意思。そして、そこにも、主要な場所(次元層)を確保しつつ、負の主導権を握っていた物質が在る。

イッテルビウム 166 は、素数の原因が活躍できなかった理由の、その中の活動的な(実行役のような)存在。ゼロの原因は無限でも、元素のそれには、それなりの対応が可能となる。岩塩を通しての地球本来の元素との融合が、それを支える。

その素数の原因との融合は、静電気(静磁気)絡みの心身の負荷を浄化し、脳を健全にする。経験の外側であっても、ここでの必要性は、それを普通感覚とし、素数の原因は、そのことを喜ぶ。

86.地球の自由な回転(自転)が失われたことで、重力の次元には歪が生じ、ゼロの土台は、それによって作り出される。この人間世界での1の誕生の元となったそのこと(原因)は、非地球的な(夜行性の)存在のその生の基本に組み込まれ、後に、それは数字の次元と重なりつつ、生き物(人間)たちの不自然な重力を自然のそれとする力となる。それは、素数の原因から見た、人間にも理解できる原因の姿。

87.どんなことでも、それ関わりの原因の変化・成長には、体験的知識が必須となり、無有日記を通してのそれは、そのことに併せて、その(無有日記の)世界との融合を普通とする中でEWが重要となる。素数の原因との付き合いは、それ自体がEWとなる、これまでにない次元の体験的知識。舞台は、生命体としての地球の時空である。

88.歪な重力のその大元となる天体規模の出来事から生み出された、不自然極まりない物質。そこに入り込むのは難しい素数は、生命たちが備える能力のその材料となるべく原因でいて、その全てを支援する。

料(数)にはなれない。それだから、そのいくつかは、無くてもいい現実を外すためのその力強い(中心的な)通り道になった。素数の原因を自らのそれとし、地球の代わりに、地球自然界を生命本来のそれにする。そんな大それたことを真面目に遊び、人間世界も、争いや病気とは無縁の時空間にする。

28.頭の中でのみ素数を順に並べていくと、ある数のところで、思いがけず感覚に変化が生じることがある。なかなか先へと進めなかったり、眠気を覚えたりすることもあり、そのことの、意味不明な意味の大切さを知らされる。素数は、それぞれがその深みと広がり(繋がる次元)を変え、そこに在るものも、そこを通るものも、皆違う。そして、数ある素数の中の独特の素数たちに出会う。

29.地球の回転(自転)が自由だった頃のそこでの時空をここに連れて来るために、この時代の地球と宇宙の中心とを繋ぐ役を担う、素数。そして、その上で動き出す地球本来と未来を繋ぐために、ここに在る重力と、人間(生命本来)の次元に入り込んだ静電気(静磁気)を処理する、素数。それだけで充分な時を経験し、更に先へと行く。それが素数。

30.素数は可愛い。2つには分けられないから、みんな同じ。素数は、個性があっても、主張は無く、力を持っていても、力を出さない。それは、完全なる中途半端。何も無い全て。どこにで

も居て、誰の中にも在る。

数を数える時にはそこを通っても、ひとつのまとまりとしては殆ど使われることのない、素数。13 個や 29 個だと、思考は、どこか落ち着かない。それだから担えること。人間の都合が通用しないから、為し得ること。素数は、その原因(の次元)から、生命たちの希望そのもの。

31.ぶつかろうにも、ぶつかる原因を持たない、素数。他の数の中に素数は在っても、素数の中に他の数が存在しないことを思えば、素数には、全てを、争いや衝突とは無縁のものにする力が備わっていることが分かる。歪んだ世界を余裕で変えていける、素数の原因。それと繋がる岩塩を土台に、全粒穀物食を活躍させ、素数のように生きる。素数は、一生命としての人間本来を応援する。

32.静電気も静磁気も元々は地球には無かったものというその異質感が教えるのは、そのどちらも、非地球的原因からなる不自然な物質であるということ。物質は、中性子の数が1個違うだけで、全く質(次元)の異なる働きかけをする。それらの物質(の本質)を包み込むようにして動き出した、素数の原因の意思。それは、静電気(静磁気)の無い地球本来の風景の、その原因を創り出す。

33.太陽の下で生きる生命たちが、そのまま快活に健康で

83.何らかの作用を生み出す働きかけが為される時、そこには必ずある種の物質が在り、それは(その元素は)、その質量数が地球本来からは大きく外れた物質となって、周期表の世界に在る。

ゼロの土台となる次元にも、ゼロと 1 それぞれの原因にも、そこには、歪で非生命的なある元素の意思が在り、それらは、重力の歪みの材料となって、地球空間と地球感覚を生きる生命たちに負荷を与え続ける。次なる時へと進み行く無有日記に、素数たちは、心地良い緊張を感じる。

84.ゼロから 1 までの重量級の負の原因によって下支えされた、素数ではない数字。それらが潜める多次元級の威力と対峙することは、人間の次元では不可能だが、その内の主要な数字関わりの原因の中に在る歪な元素のその実を把握することは、それだけで、EW の質を成長させることになる。

人間の体は、その必要性から、細胞の隅々まで、痛みを抱えたままの地球の成分で構成される。これまでの経験を基に、軽いタッチで、地球本来にとって重要な物質のその中身に対応する。

85.静電気(静磁気)の、その原因となる次元のその表層(粒子の粗い次元)には、「直感」でも登場したルビジウム 82 他が在る。それへの対処は、身体レベルであれば、素数にとってもそれは難しいものではなく、131(307)がそれに当たる。

80.湿度の無い(低い)心地良さを普通とすることで動き出す、湿度の元となるその負の原因の力。それに覆われても全くOKである程の更なる普通を通して知るのは、それが、地球の悲しみと繋がる、不要な経験であるということ(「地球の真意」)。その上に安定感を保つ静電気も静磁気も、131と307によって、そこに潜む物質は乱れ出す。

81.地球が、太陽と共に銀河の不調和の連鎖から抜け出そうとするその動きに、31は協力し、その働きかけを楽しむ生命たちの活力に、11が付き添う。そして、生命の意思表示のその質の進化の材料となる、47との体験。それぞれが対応しようとする重苦しい負の原因の通り道(数字)は、その基から揺れ動く。

82.非地球の意思が、人間の次元に合わせて、破壊や支配のその原因を集中的に重ね得た、いくつもの素数ではないある特別な数字。ゼロの原因のその元から始まるそれが素数の原因を力無くさせたことを考えれば、人間の世界に在る、そこで妙に意味づけされた数字からは自由でいることが望まれる。

知らなくてもいいことを遠くに、意思表示し出した素数たちを大切に。そうであることに安心する彼らは、生命たちの元気の燃料となりながら、自分たちにしか出来ないことを表現する。

いられるそのための、地球自然界の、地球そのものの重力。そうではない次元のものとしてここに在るそれを、素数の原因はきめ細かく浄化していく。それは、素数の一番の仕事。歪な重力のその核となる存在(物質)を彼らは知るから、これまでの無有日記を基に、そこへと行く。受容するしかなかった重たさ(非生命的な重力)は、少しずつ確実に外れ出し、心身は軽くなる。

34.分からないままで居られる人間発の強さに支えられて、その力を発揮する素数ではあるが、そんな彼らにも、本来であれば無くてもいいその経験が生み出されてしまったその大元となる存在に対しては、何も出来ない。素数を通して出来ることを無限に行う彼らは、それへのEWをこの無有日記に預ける。無有日記は、喜んでそれを行い、変化の時を、生命たちと楽しむ。

35.全ての病みは、静電気(静磁気)と歪な重力によるものであるという、事の手前のその原因の次元から観た、生命世界の実事。素数の原因は、その理解と実践を、経験の外側からここに案内し、地球の望みの具現が夢ではないことを教える。そこに在る物質を把握すると同時に、それへの対応が始まる、地球を生きる人間の普通。そのために活かされる素数たちも、奇跡という名の更なる普通を元気にする。

36.ほんの少しずつでも、確実に、地球らしい地球へと時空が変わり行く、この時。素数を通るその元となる原因は、人間時間を経験する生命たちから、これまでの負荷を外し、そこに在る経験の記憶を、元素本来のそれで浄化する。そして彼らは、無有日記の側に居て、重力が地球のそれではなくなってしまうその原因への EW に参加する。炭素とヘリウムと水素、それぞれの中に在る、その変異・壊変級の次元を遥かに超えた、(永遠の中に身を潜めた)超異常な物質。人間発の未来地球への原因は、より力強い変化に乗る。

37.本来の重力が乱れると、自然と生命体から失われて行くものが、次々と引き寄せられるようにして辿り着く場所(次元)。それは、重力を獲物のようにして扱い、いくつもの物質を利用しながら、その腐敗型の力(原因)で、思うままに対象への支配を遊ぶ。人間の体を重くすることなど、それにとってはとてもた易いこと。素数の原因は、自分たちのかつての経験をムダにはしない。その記憶をここに活かす。

38.身体が覚える重力は、軽さを感じた時の、それまでとのその違いから。そこには、様々な物質が複合的に絡み、環境や時代背景によってもそれは微妙に異なる。(人間時間に在る)それらの物質を通り抜けて、ここに、かつての重力の要素を運ぶ、素数の原因。それは、思いがけず、重力の無い次元からその本質を見極める感覚的反応を引き出し、無有日記に、その

76.原因の世界における変化の無さの、その象徴としてどんな数字の中にも在る、1.1 に向かっても、数字は新たな何かにはなれず、1 に支えられても、何も変わらない。それでいて、その存在感は他のどの数字よりも強力。1 の中でしか居着けないものに、ゼロの原因は存分に仕事をさせる。

77.1 を通らずして、どの数字も、数字として在ることは出来ない。その 1 も、ゼロが無ければ、その力を持たない。そして、ゼロを支える、地球規模の枷のような、その負の原因となる存在の意思。素数の原因が数の世界から自由になる今、それらの繋がりには崩れ出す。

78.始まりも終わりも無い生命世界に、終わりの有る始まりを作り出したのが、1.0~1 までの動きの無い原因を力に数字の姿を手にした 1 は、そこから、いくつもの終わりへと向かう。

それに呑み込まれながらも、耐え続けた、永遠の変化そのものの素数。素数からの始まりは、すでにそのずっと手前から始まっていて、どこまでも終わりの知らない生命世界の、その原因でい続ける。

79.1 は、ゼロの代わりに、全てを支配するために誕生する。人間が存在する前には無かった 1 と、そこからの数の世界。そこに在る非地球からなるゼロの意思は、人間の次元を我が物顔に扱うためのその道具に、1 を利用する。

72. 大小・高低の比較が一切存在しない、球体の中心からのその意思表示。真の普通からかけ離れた、作られた真実は、球体の意を外すことから生み出される。平面世界での直線的な思考が「地球の真意」と融合することはないように、素数の原因との融合を避ける人が、人としての心ある生を生きることはない。

73.1 という数字に秘められた、その無限作用の停滞型の性質(原因)。ゼロの原因は、1 を生み出すその手前で思惑通りの基礎を形にし、次に続く数字を上手く操る。多次元的細分化を可能とする時、1 が生まれるまでのその間には、ゼロが一層の力を持ち得る粒子のその原因が、どこまでも蓄積する。

74.3 や 7 の素数は、1 で割れるが、それらがそうであるその原因は、1 の原因では永遠に割れない。だからこそ、ここまでの受容と確かな歩み。3も7も、その本質は、初めから在る、そのための原因。1 がそれだけの数集まったものという概念は、人間の不自由な思考の世界だけ。

75. 数字の世界では、ゼロは全く別次のものとして扱われるが、その原因の作用(影響力)からだと、1 もまたそれとは違った次元の別枠の存在として、そこに居る。素数の原因からは何とも対処し難い、実に堅固で動じることのない 1。それは、ゼロの砦のようにして数字を従え、素数の自由を奪う。

経験を渡す。軽さを感じた時、それまでの重たさは何処へ行くのか?なぜ、その後にもた重たさを覚えさせられるのか?その理由が力を無くす程の時を、人は経験する。

39. 心身が軽くなり、それが安定し出すと、重力の基本形が重たさを必要とする(夜行性の本質を備える)存在にとっては、それが不安定感を覚える軽さとなって、その影響を受け始める。それは、地球自然界が本来のそれへと、人間の次元から動き出している現れ。人間世界が軽くなれば、自然界の変化も速い。その頃には、それ関わりの素数たちも、たくさんの仲間を連れて来る。

40. 生き物たちみんなにとって、何より大切な、不穏な重力のその基本要素となる次元への EW。自らはそこには行けない素数も、その経験の記憶からなる反応で、それに協力する。不調和な元素層で我が物顔に時空を操る、妙な存在(物質)たち。素数の原因としてずっと地球と共に居る生命たちは、それらへの対処が可能となるその時へと歩み出す。

41. 質量が違くと、同じ元素でもそれぞれが全く異質感を覚えるという粒子の世界は、融合や協調、健全さとは無縁であるため、そこでは、破壊や支配を生み出す程の反自然的な力関係が生まれる。人間の体を構成する物質の中にも当然その次元の様は在り、その修復が成されれば、人間本来を生きる

人は、不調知らずの人間らしさを普通とするようになる。

窒素元素の世界で、これ以上の危うさは無いという質量の持ち主に触れる。素数の時と同じように、これまでに育んだ、多次元的な原因からなる感性に、それは反応する(反応させられる)。

42.その後、テルル及び酸素元素層それぞれの病みの主のような(質量数が極めて多い)物質がうごめき出し、その姿を把握されたことで、これまでと同じようには行かなくなる時を、彼らは迎える。そして、地球自然界にとって重量級の違和感となる、恐ろしく異物化した水素関わりのEWを通して、水とアミノ基は、本来へとその原因を刺激される。現象世界のそれまでに無い微妙な変化から、その確かな流れ(動き)を、人は実感する。素数は、自分たちが動き出したことで成される新たな展開に、驚くばかり。

43.体験的知識の、その質の進化が重要な鍵となる、素数のEW。そこには、これまでの知識全てが通用せず、思考の力も一切不要となる。それゆえに、「素数の日記」の存在は、読み物としてではなく、新たな時空と自由に遊ぶという実践を通しての、(そこでの)自らの原因の変化の、その確認のためとする。意味不明度は、これまでで最も。素数の原因の次元がその度に関わるから、それは当然であり、その全てが普通。

の元となる、地球の回転軸が固定された時のその原因は、次第に浄化され、そうではない地球へと戻ろうとするその原因の変化に、心身の次元は連動する。それは、地球と繋がり、地球と共に生きて来た生命たちの、自然で健全な反応。

69.地球感覚に備わるのは、地球が抱え込んだままの病みに付き合える力。地球によって生み出された人間は、元来それを普通とし、人間にしか出来ないことをして、自らのために地球を癒し続ける。ゼロの原因を支える存在(物質)によって被った、地球の、その痛みと繋がるものを、人は、自分の中に観る。

70.地球の自由な動き(回転)を抑え込んでしまうという、そのあり得ない経験。その自覚もなく変質を繰り返す中で、自らがそのことを担わされ、実行してしまっていたことに、それ関わりの物質たちは愕然とする。それでも、ここまで持ちこたえた、地球。その時に力無くさせられた素数の原因は、自分たちも同じだと、彼らに同情する。

71.元気になった素数の原因の動きと共に、地球が自由だった頃の時空がここに流れ出す時、生命を生きる人間たちの首(体)と脳には、強力な自浄力の原因がみなぎる(体は地球。脳は地球の意思)。それは、地球の喜びの力。地球と共に居る生命たちは、そのままで時空を癒す普通を力強くする。

65. 右回転でも、それで活力が盛んになれば、それは、その存在にとっての生命力(線)。それが、この地球には元々存在しなかった、夜行性動物(「直感」と、それ繋がりの本質を備える人間の姿。そのために厳しく辛い時を生きてきた生命たちは、この時代の、重力の歪さが浄化される程のその変化に、素数の原因繋がりで感応する。右回転のその元となる中心核(ゼロの原因の中心)は、この場所での EW で、理由も分からず、そうであり続けた理由を無くす。

66. 全ての数を無しにしてしまう力を持つゼロであっても、完全には消すことの出来ない、素数の原因。そのことは、ゼロの力を削ぐことが出来れば、全てが変わり出すということの意味し、未来地球にとっても、それ程の原因(の創造)は無い。体験的知識の次元をさらりと進化させる、この今、この時の、ここでの人間時間は、地球自然界の大いなる望み。

67. 人間の思考からなる左右の概念を無しとすれば、左回転のその原因は、生命力を躍動させる自由な回転。右回転は、滞り(停滞)の力。それは、地球の本来と、非地球の異常(不要)。地球の自由は、左回転を普通とし、そこに生きる生命たちのその原因を、それで活かす。不自由さから生まれた右回転は、無くてもいい経験の負の土台でい続ける。

68. 人間だけに通用する時空のその材料として在る、ゼロ。そ

44. 1~100 までの数字を全て書き記した後に素数を探すという行為と、1~100 までの素数だけを書き記すという行為。それぞれは、驚く程の感覚の違いを見せ、前者は、思いの外、辛さを抱かされる。その後、数字が記された箇所を眺めると、更に大きな違いを覚える。

素数ではない数字に潜んだままの、思考では触れ得ない妙な原因。一生命としての普通感覚は、変化し続けるその普通の原因により、形無き異常を、簡単に形(感覚)にする。

45. 素数を通る、生命源と繋がる原因に触れていると、素数ではない数字を通る、それとは質(次元)の異なる原因に余裕で感応できるようになる。そうやって初めて知ることになる、(素数ではない)いくつかの数字が備える、信じ難い程の独特の力。本来人が持ち合わせる事の無い、不安や重たさ、差別心などのその要素となるものまでが、そこで蓄えられていたことも分かり出す。

46. 時間と切り離された空間を元に戻すために、思考に一切力を与えずに、思うままに動いてみる。すると、結果(過去)と密に繋がっていた数字(の世界)がそこから外れ出し、生の原因は本来へと動き出す。と同時に、数字に隠れていた(隠されていた)本性の危うさや無意識の意思の狡さは騒ぎ出し、それらが好んで集っていた場所(次元)の数字は、その不安定感を強めて、容易に把握されることになる。その実にあり得な

い話の中から、素数の原因は元気になる。

47.10 単位で回りながら量や幅(距離)が増えていくという感覚で数の世界を捉えれば、1 の位が同じ数字は、ずっと中心からの位置(方向)が同じ。素数で割れる素数ではない数字の、その原因の重たさは、この人間世界では1の位が8の数字に集まりやすく、それを浄化しようと、その少し上の素数を通る原因が力を出す。人間の次元にくさびを打つようにして固定された、いくつもの負の原因が、素数と歩む体験的变化のその進化により、深くから動かざるを得なくなる。

48. 数字を用いる度に、思考は、ゼロに力を与え、ゼロは、それにより安定感を強めていく。数を数える際には使われることはあっても、それ自体は数字の域には無い、素数ではない数字の支え役のようなゼロ。その次元に引き付けられた(つかまった)ままずっと身動き出来なくなっていた素数は、この辺りで完全に息を吹き返す。

49. 静電気への対応を快く担う、ある素数を通る生命本来の力。彼らに任せられるところは任せ、出来ることは、自らが行う。

静電気が溜まりにくい岩塩は、食生活の基本材料。砂糖も、ビート(てんさい)糖を主に、全粒穀物食で素数の原因に協力する。静電気が溜まりやすい海の塩は、白砂糖同様、人間本

の滞ったままのかたまりにも、ひびが生じる。

62. 地球の中心から生み出される生命力線(磁力線、重力子 etc.)は、生命本来のその活力源となる、左回転。岩塩を通る元素の原因は、それをこの現代に繋ぎ、素数を馴染ませる人間のその内側で、力強く地球本来の仕事をする。ブラック岩塩の原因を守るようにして後に創られた、レッドやピンクの岩塩。そして、それに続くホワイト。その全ての岩塩がここに在ることを、素数は力に変える。

63. 自由な回転(自転)が押し潰されてしまう程の力がそこには絡んでいたために、どうにもならなかった、地球と素数の原因。ゼロの原因は、破壊と衰退への連鎖を完全に固めようと、人間という存在を通して、その意思をここに現実化させる。そのことの状況把握とそれ関わりのこれまでの原因の観察(浄化)は、ほぼ終わり。素数の原因から、人間世界のその原因を確実に変化に乗せる。

64. 経験の外側にも無い、ゼロの原因。素数の原因のみが知るそれは、人間経験を実践する生命たちのその生の原因の中で、奇跡的にも扱われ出す。右回転のエネルギー源であるそれへの対処は、素数の原因(左回転)と融合する生命たちの、その時空を透過する程の遊び心で、普通のこととなっていく。

行けることを、それらは、何より嬉しい。

59. 夜行性動物が現れる頃には、すでに活動的だった、ゼロの原因。そして、その力を失くしつつある、素数の原因。前者は、後に、夜行性絡みの人間の思考に利用され、後者は、そうではない人間の普通を支え続ける。

人間の居るこの時空には、素数の原因と、数の元となるゼロの原因の、2つの(形無き原因の)次元が在る。人間の非生命的な現実(歴史)の殆どは、ゼロの原因の具現である。

60. 素数の原因を抑え込むようにしてその存在感を強めた、ゼロの原因。それは、非地球の本質(の姿)でもある右回転のその燃料源として、時空への影響力を安定させる。0と1の間に在る、右回転の凄み。そして、無限にその原因を供給する、ゼロの次元。素数ではない数字が備える負の個性は、その隅々まで、ゼロと繋がる。

61. 右回転の本質は、固定した停滞。それと融合することになる左回転は、生命力をどうにか維持・安定させるために、より力を出して左へと回ろうとする。そのために、その固定した停滞は、自ずと右回りとなり、その力も増大する。それが右回転の実。

素数の原因が強さを手にするという、これまで一度も無かった、原因(生命)の世界の変化。非生命的で動きの無いそ

来には無縁なもの(「地球の真意」)。非生命食で(体内を腐らせて)健全さを保つという、夜行性の次元でのみ、それらは欲せられる。

50. ゼロに守られ、支えられる、素数ではない数字のその動きの無い原因。ゼロが在るために、動く自由を抑え込まれた、素数の原因。ゼロの中にはいくつもの次元が無数に連なるが、その全てが人間の思考(の次元)と相性が良いというぐらい、停滞と限定を生み出す。球体である生命の原因を外し、永遠の変化からは最も遠い平面(直線)の世界を固定させる、ゼロ。ゼロへの思考をゼロにすれば、それだけで、全ての中心と繋がる素数(の原因)は、力を手にする。

51. 重く、動きの無い(動きを止める)原因を通す数字のその近くには必ずそれを浄化しようとする素数が居て、それらの素数の原因をこの時代の変化の原因と融合させることで、人間の(思考の)次元からも、その仕事に協力することが出来る。素数と人間それぞれの原因がひとつになるそのことで成し得る、ここからの普通。心身も、周りの風景も、望むべくその原因の変化に反応する。

52. この時代が担う未来への原因づくりに協力しようとする、素数の原因。それは、直感本来の機会に生まれる、枠の無い思考の次元に付き合い、そこでの必要性に見合った素数の

背後に集まって、そこを通り抜ける。この現代仕様の仕事を楽しむ彼らは、無有日記のその原因と共に、次々と、次なる未来へと遊びに行く。

53.原因同士が繋がり合う、本来の人間と素数たち。それは、素数ではない数字(の原因)の中に居る存在を、これまでの融合空間から外していく。抑え込まれることも、支配されることもない時空を生み出し、確実に未来を地球のものとする、そこでの新たな経験の創造。素数の原因は、地球が嬉しい原因そのままの人間の中で、無限の仕事をする。

54.本来この地球には無くてもいいものへの処理(除去)を、素数の原因の意思は、喜んで担おうとする。人間の世界に無くてもいいはずのものも、彼らは、そのために出来ることの質を高める。不安も痛みも動きにくさも、素数たちの個性ある表現を通して、それらの原因は力を無くす。

55.素数の本質を大切にしてくれる人間たちのために、いくつもの素数を通して遊びに来てくれた、その元となる(地球を通る)生命力の原因。地球の意思を守るために踏みとどまり続けた自分たちの、この今への繋ぎ役である73、79、そして211、109 それぞれの原因を力強くしてくれたから、彼らは、人間の(その基となる)次元深くに入り、そこに在る無くてもいい歪な時空の原因を浄化してくれる。それは、人間の可能性が一気

に高まる、とてつもないEWの始まり。

56.あらゆるもののその原因を地球本来のそれと重ねて変えて行こうとする、素数。無有日記に守られる素数の原因は、この時とばかり、その力を発揮し、地球規模の変化(調和)に繋がるこの時代の必要性に、自らの動きを合わせる。通る素数も、通るものの性質もそのタイミングも、ほんの少しのズレもなく変化し続ける原因のそれになる。

57.行くべきところへ行こうとするその瞬間に、素数の原因は動き出し、扱うべき現実や触れるべき抽象世界の対象に意識を向けるその時に、彼らは集まり出す。そして、共に直感の次元に漂いつつ、ある素数を、その原因は通る。

その手前では浄化すべき負の原因関わりの数字が把握されているので、素数の導き出しは、実に余裕。素数の原因は、素数と句のEWを核に、それを活かす人間と共にこの時代で戯れる。

58.その全てが確認作業のようにして始まった、生命たちのここでの身体時間。彼らは、素数を通る意思と素数で繋がり、記憶の中の地球との時空を、懐かしく語る。

素数の原因は、かつての変化のひな型を、1~400の中にその多くを重ね、それぞれのその性質(次元)に感応してもらえるよう、人間たちを支援する。この時代を通して未来地球に